

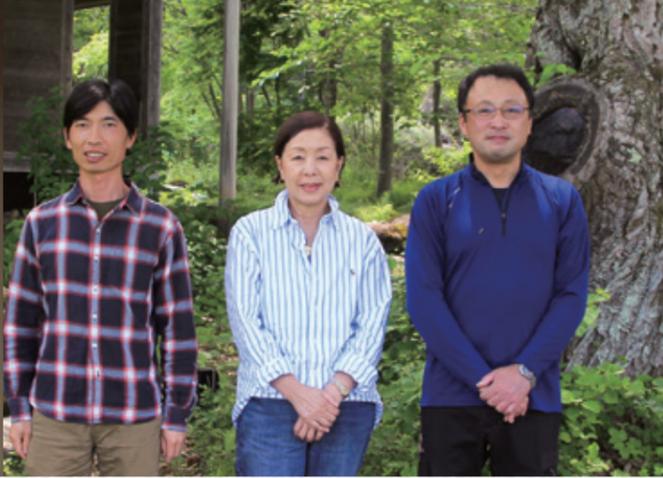


COSMOエコ基金 活動報告書

第22期

2023年4月1日～2024年3月31日

皆さまのあたたかいご支援、
誠にありがとうございます。
近年は「エコカード」に加え、
「カーライフステアアプリ」や
「コスモでんきグリーン」から
のご寄付が増えるなど支援の輪が
少しずつ広がってきました。
ひとつひとつの想いを、
国内外で有効に活用させていただきます。
今後ともよろしくお願いいたします。



THANK

YOU

PRESS

2024

COSMOエコ基金の想い

私たちコスモエネルギーグループが取り扱う石油は、

豊かな暮らしを支えてきた一方で、地球環境に負荷を与えてしまうことも事実です。

そこで私たちは、1990年代からいち早く環境問題に取り組んできました。

そのひとつが、「ずっと地球で暮らそう」プロジェクトとして活動を続けている「COSMOエコ基金」です。

気候変動対応や生態系を守る活動をサポートすることで、貧困など根本的な問題の解決にも貢献してきました。

COSMOエコ基金は、今年度で23年目を迎えました。

会員の皆さまに支えられ、取り組んできたこれまでの活動が、国内外で成果を上げています。

これまでの活動を大切にしながら、その上で、低炭素・資源循環型社会の実現に向け、

再生可能エネルギーに向きあい、同時に、次世代を育てるプロジェクトにも積極的に取り組んでいます。

私たちのひたむきな想いと取り組みを、社会のために。そして未来のために。

COSMOエコ基金は皆さまとともに歩んでまいります。

COSMOエコ基金の想い。その実現をめざして 中長期ビジョン

COSMOエコ基金は、多様なパートナーシップにより、
気候変動問題に向きあい
「地球と人に配慮した脱炭素志向の
開かれた地域循環社会」づくりに貢献しています。

3つの戦略

社会課題解決への新しい取り組み
コミュニケーションの強化
多様なパートナーシップの構築

5つの個別戦略

プログラム



コスモエネルギー
グループ内連携



コミュニケーション



会員



パートナー



ご支援いただいている皆さまへ



理事長あいさつ

COSMOエコ基金
理事長

ルゾンカ 典子

日頃より当基金を支えていただいている皆さまへ、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。おかげさまで当基金は今年度で23年目を迎えました。今年度は、再生可能エネルギーの地産地消と生態系保全をテーマとする2つのプロジェクトが加わり、環境教育など次世代の育成に向けたプログラムがより充実してきております。

昨年開催された第28回国連気候変動枠組条約締約国会議(COP28)では、世界の気温上昇を1.5度に抑えるというパリ協定の目標までは隔たりがあり、それに向けた行動と支援が必要であることが強調されました。当基金の活動におきましては、気候変動と生態系の回復・保全(生物多様性)の両面を活動テーマに掲げております。また、私どもコスモエネルギーグループでは、来るべき脱炭素社会を見据えつつ急速なエネルギー転換による影響も考慮しながら、いつの時代も社会の原動力となるエネルギーの安定供給と、関連するサービスの提供を通して、持続的発展(サステナビリティ)の実現をめざしています。

大きな社会課題を考える時でも、自分たちに何が出来るかを考え行動する第一歩が重要と考えています。皆さまの貴重な想いを、当基金がしっかりと受け止め、ずっと地球で暮らすために、引き続き活動を推進してまいります。

今後も、皆さまとともに歩んでまいりたいと考えておりますので、ご理解、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



評議員メッセージ

COSMOエコ基金評議員
サステナブル経営総合研究所 所長

多田 博之

プラネタリー・バウンダリーという言葉をご存知でしょうか。

これは2009年にスウェーデンのヨハン・ロックストローム博士らが提唱した概念で、一言で言うならば、地球の健康診断表です。気候変動を筆頭に、9つの指標から構成されていますが、最近の調査で、残念なことに9項目中6項目が劣化していることが判明しました。また、あのSDGsの17項目の中でも、Planetを表す3項目の進捗が全世界的に思わしくないことが、報告されています。地球は今、待ったなしの危機にあるのです。

こうした中、私たちは国や行政、企業にその解決を求めがちですが、そうした「他人事」の姿勢では、危機は決して回避されることはないでしょう。我々一人ひとりがしっかりと危機感を共有し、日々、「自分事」として行動してこそ、小さな灯が見えてくるかもしれません。

COSMOエコ基金がそのためのきっかけ、一助となることを願ってやみません。

2023年度 プロジェクト レポート



5 プロジェクト

環境保全を地域の力で。
そのための経済的な自立も視野に入れた
住民参加型の活動支援に力を入れています。

1

ネパール

野口健 ヒマラヤに森をつくろう

認定特定非営利活動法人 ピーク・エイド



サマ村での植林活動は9年目。皆さまのおかげで、植林した木々は順調に育っています。

左より、ツァオン・ギャルミさん、テンジン・ノルブラマさん

住民たちの手による苗木の育成と管理、植林のノウハウが定着しつつあります。

ヒマラヤ山脈の麓で過度な森林伐採によって荒廃した土地に緑を取り戻す活動をサマ村とエベレスト街道の2つのエリアで行っています。サマ村では、これまでに植林した50,000本の木の管理と苗センターでの新たな育苗10,000本に取り組みつつ、村人約140名とカラマツの苗5,000本を植えました。調査によると植林した苗の85%が現地の気候風土に適応して元気に育っています。エベレスト街道では、標高3,750mの気候に強い種子の苗を育てる新しい苗センターが完成したり、環境教育用ハンドブックを作成し地元小学校に配布したりといった新たな展開がありました。

植林した木の管理
50,000本

苗センターで
育てている苗
10,000本

2

キリバス

南太平洋諸国支援

特定非営利活動法人 国際マングローブ生態系協会 (ISME)

マングローブの植林に力を入れて、計画の2倍の植林を達成しました。

海岸侵食が深刻化するキリバスで、将来的に地域の人々が自らの手でマングローブ植林が行えるよう、現地への技術提供や植林活動を通じた環境教育の普及をめざしています。首都タラワの国際空港と市街地を結ぶアナノウコースウェイの侵食を防ぐために、毎年2回、計6,000本の計画で植林を行ってきています。今年度は日本からの指導者の渡航が諸事情により少ないままでしたが、現地の若者たちを中心に植林活動の回数を増やし、計画を上回る5回の活動で12,590本の植林を達成しました。

温暖化で沈む国キリバスの海岸侵食軽減に向けマングローブ植栽に励んでおります。継続必須なためご支援に感謝いたします。



ISME職員

マングローブの
植林 (通期)
12,590本

3

パプアニューギニア

熱帯雨林保全

公益財団法人 オイスカ



長い間のご支援どうもありがとうございます！自然環境を守り、村の生活向上に尽くす人材が育っています！

左より、荏原 美知勝さん、デリック・ガレさん

干ばつにも異常気象にも負けない有機農法の実践を進めることができました。

熱帯雨林減少の背景には地元住民が生活の苦しさから森林を伐採業者に売却してしまうという問題があります。このプロジェクトでは定置型有機農業の技術指導と、農産物などを使用した地場産業の育成で環境保全と経済的自立の両立をめざしています。今年度は、タロイモとタバコの共生栽培、竹や木の腐葉土に繁殖した菌の利用など、地元にある資材を活用した肥料づくりや虫除け剤などの開発が進み、干ばつに強い有機農法を学ぶよい機会が得られました。また、伐採企業から地域を守るために行っている土地登記への理解も進んでいます。住民間の地道な話し合いと啓発を続けてきた結果、州政府の継続したサポートも得られるようになり、大規模伐採の反対交渉にも賛同が集まるようになってきました。

稲作栽培指導参加者
43農家



4

ソロモン諸島

熱帯雨林保全

特定非営利活動法人 パシフィックガーデン

継続した活動が州政府にも認められ、協働で地域を支える人を育てています。

豊かな熱帯雨林に覆われるソロモン諸島ですが、都市部と比べて貧しい農村地域ではコストのかからない焼畑農業が広がりやすく環境破壊につながる要因となっています。環境保全と経済的自立を実現するために、地元資源のカカオ豆に注目し、生産から加工・販売まで学べる研修体制を職業訓練校で整えた結果、今年も100名の若者が世に送り出されています。また、沖縄では、ソロモン産カカオ豆の加工品を扱う沖縄のアンテナショップの運営とワークショップの開催でカカオを通じた国際交流を進めています。

プロジェクト地であるソロモン諸島の首都ガダルカナルは沖縄と同じ第二次大戦の戦地でした。来年は終戦80周年の節目にあたります。皆さまの厚志に支えられて、日本からできるソロモンへの支援として運営するフェアトレードパーラーは、沖縄の皆さまとソロモンを結ぶ、地域に根差した国際協力の場として多くの皆さまとの交流拠点になっています。



左より、宮城 エリカさん、伊藤 健治さん

職業訓練校の卒業生
100名



5

フィリピン

異常気象に負けない森づくり

公益財団法人 オイスカ



2023年度は地元住民やボランティア計78名が参加し2,570本の植林(生存率95%)と600haの森を火災被害からまもる活動を行うことができました。

植林プロジェクトに参加している村人達

地域のパトロールなど防災・森林管理を住民たちが率先して行っています。

火災に強い樹木の植林によって防火帯を整備する活動と住民の力で森林再生をめざすための環境教育を進めています。今年度は目標を上回る2,570本の苗を植え、度重なる台風にも大きな被害を受けることなく順調に成長しています。また、地元小学校が体験学習に植樹を取り入れるほか、地元高校生の防災セミナーへの参加、小中学生の受賞作品を挿絵にした環境学習カレンダーの制作など、若い世代の参加が進んでいます。森林火災や台風などによる自然災害が世界的な脅威となっているなか、注目に値する取り組みとなっています。

災害リスクのある
エリアへの植林
2,570本



国内

10 プロジェクト

全国各地で、森林保全活動への取り組みに加え、環境学習や資源循環の仕組みを学ぶ活動に広がりが出てきています。また、学生を中心とした企画も生まれ、COSMOエコ基金の支援を持続可能な未来をつくる活動へつなげていきます。



6 兵庫県

人と動物が共生する「安賀彩りの森」

特定非営利活動法人 奥播磨夢倶楽部

「生物多様性と環境保全」ワークショップで生態系の調査も始めました。

夏の猛暑や大雨などの天候不順の影響もありましたが、果樹を守る防護柵の設置や散策道の整備は予定どおり実施できました。また刈り取った草で堆肥づくりを行うなど、資源循環を体験できる森林整備が進んでいます。

新たに始めた「生物多様性と環境保全」のワークショップも、姫路市立手柄山植物園の研究員を講師に迎え盛況でした。また、里山保全の活動メンバーも70代以上のシニアから20~50代に交代しつつあり、ボランティアには現役世代からの問い合わせが入っているとのこと。課題であったメンバーの世代交代も進み、将来に向けた体制づくりにも取り組んでいます。

ご支援ありがとうございます！
1年通じて楽しめる彩りの森づくりと森のエコカフェの整備に取り組んでいます。

里山の保全面積
10,000m²

左より、入船諒さん、大橋佑輝さん、和井秀明さん、山内一輝さん、春名千代さん

7 徳島県

地域住民で守る神山の里山保全

認定特定非営利活動法人 グリーンバレー

水源地の整備で森も健康になり薪調理場や薪風呂も完成しました。

放置されあきらめかけていた森林に入り、地域の皆さんと一緒に間伐、下草狩りなどの整備を行いながら、自然エネルギーの活用方法も体験できる活動を行っています。

今年度は水源周辺の森の整備を進めた結果、湧水が出るようになり、森の中の棚田で米作りにも取り組みました。生息する動物や植物も増え、夏にはホタルも観察できました。また、乾燥小屋や自然水道を整備し、間伐材を有効利用する薪調理場と薪風呂も完成し、「森のサウナ」のYouTubeは26万回も視聴されました。森の恵みを活かせば、水も食べ物もエネルギーもつくり出せることを、共同作業を通して多くの方に実感していただいています。

あたたかなご支援、ありがとうございます。
おかげさまで、森の中に水と風の流れが生まれ、年々、生物多様性が豊かになってきました。異なる世代の町民が集う場にもなっています。

自然エネルギーの活用
自然水道の整備、
薪風呂と調理場の完成

左より、齊藤 郁子さん、ヴァレリー・テレさん

8 和歌山県

生物多様性を体感できる森づくり

特定非営利活動法人 自然回復を試みる会・ピオトープ孟子

多くのチョウが生息する環境を里山の整備で守ることができました。

今年度は、長年整備を行ってきた孟子不動谷の「やすゆき公園」で生態系の観察基準となるチョウ類の調査を8回に分けて行いました。調査には県立向陽中学校理科部の生徒たちも参加して、自然環境の指標としているゴイシジミ、サツマジジミ、コムラサキ、ヒョウモンチョウ類など42種のチョウを確認しています。ゴイシジミの確認は3年ぶりです。これまで確認できたチョウ類も半分以上が生息しているとわかり、公園周辺のチョウの多様性をしっかり守ることができました。引き続き、やすゆき公園エリアの整備を進めながら、動植物の調査を行い子どもから大人まで生物多様性を体験できる里山づくりを行っていきます。

水辺ピオトープ(とんぼ池)は、稲作水系に依存する生物(ニホンアカガエルなど)を保全するために同会が掘削管理している自然再生エリアで、助成をいただいている「未来遺産運動」の主要活動拠点です。本年2月には和歌山県レッドデータブック絶滅危惧I類・ニホンアカガエルが400個産卵しているのが確認できました。令和6年度の助成ではこの背後にある「ふゆみずたんぼ」の整備とモニタリング調査をさせていただきます。

生息を確認できた
環境指標となるチョウ類
42種

左より、山本 昌寛さん、坂本 雅城さん

9 滋賀県

学ぶ、守る、つなぐ、琵琶湖の水

認定特定非営利活動法人びわ湖トラスト

自然エネルギーで走る模型ソーラーボートレースで琵琶湖の自然や環境を考え体験しました。

無人の模型ボートを太陽電池で走らせて、水中に入る太陽エネルギーの大きさや自律型水面ロボット制御について学習し、湖沼や海洋の自然と触れあうことを目的に開かれている「ソーラーボート大会」。今年は琵琶湖畔で開催される本選に先駆けて、びわ湖トラストの学生メンバーの発案で実行委員会をつくり予選をバーチャル空間で行いました。その結果、大会には国内外から300名が参加、YouTubeによる配信の視聴者は約200名にのぼりました。本選では、大学生や造船会社の社員チームも参加し、子どもたちと一緒に熱戦を繰り広げました。

いつもあたたかいご支援、ありがとうございます。
びわ湖トラストは、仮想空間と実空間をつないだソーラーボート大会の実施と、波力ポンプを用いた自然エネルギーの利用を行っています。

中高生のソーラーボート大会
参加者
300名

ソーラーボート大会に参加したびわ湖トラストの学生メンバー

10

静岡県

世界遺産 富士山の森を守り再生させよう

認定特定非営利活動法人 富士山クラブ

児童から企業まで多様な参加者に向けて、プログラムもさらに充実しました。

富士山の森は、人の手があまり入っていない「奥山」と人々の暮らしに近い「里山」があります。富士山クラブでは、この両方の森を守りながら、主に「里山の保全活動」を多くの方に体験していただけるプログラムを開発しています。富士宮市内の「里山の保全活動」は、若い世代へのアプローチを意識したこともあって、今年も300名を超える方が参加しました。企業や大学の研修や社会貢献活動のほか、地元の放課後デイサービスの子どもたちの受け入れも増え、社会の意識の高まりを感じます。プログラムの内容も、里山を整備する間伐や下草刈りをメインに、ツリークライミングやキノコの菌打ちなど自然体験も充実し、今年は「食」をテーマに森や自然を考えるイベントも開催できました。今後は、増加した参加者の受け入れ体制を、いかに整えていくかが課題です。



整備作業の後はジビエ(ニホンジカのジャーキー)を試食森にまつわる様々なことを体験していただいています

いつもご支援ありがとうございます!富士山の美しく豊かな自然を守り次代につなぐためこれからも活動を続けていきます!



整備した里山の面積

3,000m²

11

神奈川県

竹林を間伐して鎌倉の森を取り戻そう

一般社団法人 地球の楽校



今年の活動もタケノコの間伐作業から始まりました。昨年に続き竹林内の整備を進めて、竹林と森の共生をめざします。

森の再生と竹林管理が体験的に理解できる活動も始めました

竹を間伐した跡地に生えた稚樹を保護し鎌倉の生まれのクヌギの苗を植えています。

鎌倉の森を再生するために、今年も竹林の間伐や整備を行いました。春にはタケノコと若竹間伐をし、この竹材を使ってメンマづくりなどのワークショップを開催しました。間伐だけでなく、月2回、森の再生エリアを見回り、外来種の除草作業もしています。初夏までに延べ50名近くの市民が参加し体験しました。これらの活動によって、森と竹林の間に新たな空間が生まれています。そこに地元の幼稚園の子どもたちとドングリから育てたクヌギの苗も植樹しています。6年続けてきた竹林の整備は、ようやく森が再生し景観を整える段階に入りました。

竹林整備の参加者

320名



12

東京都

八王子の里山を明るい森に変えていこう

特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所

継続した活動で順調に里山の整備も進み、市の環境保全課から謝辞もいただきました。

八王子市上川地区の里山保全活動は、今年度も計7回の「里山ボランティア」の活動に約300名が参加して、22,000m²の森を整備しました。研修や社会貢献活動で里山保全に関わる企業も新たに12社が加わって15社に増え、事業も計画的に進められるようになりました。

整備で出た木材はチップや杭として使うほか、丸棒に加工して散策路の土留めに使うなど、約9割を再利用できました。順調な整備の進捗に、保全地を監督する市からも感謝の言葉をいただいています。COSMOエコ基金で築いた人脈と事業で、引き続き保全活動を続けていきます。

2011年の長野県東御市でのプロジェクト以降、12年の長きにわたりご支援をいただき、誠にありがとうございました。本年の八王子での支援終了を機に、自立の道を選ぶことにいたしました。会員の皆さまとの御縁に感謝しながら、森への無関心をなくすというミッションに邁進してまいります。



左より、越智 浩一さん、竹垣 英信さん

里山整備の参加者

306名



13

長野県・宮城県

C.W.ニコル・アフンの森と東松島の森づくり

一般財団法人 C.W.ニコル・アフンの森財団



アフンの森では、今年も2羽のフクロウが巣立ちました。皆様のご支援のおかげで、森に暮らす生きものたちの生態系が保全されています。ありがとうございます!

左より、大澤 渉さん、森田 いづみさん、石井 敦司さん

トラストによって北と南に分断された森がつながりました。

長野県北部にある「アフンの森」では、引き続き手つかずだったエリアの整備を進めています。作業道をさらに150m整えるとともに、トラストによって新しい土地を取得し、分断されていた北と南の森の一部をつなげることができました。ボランティア会員の皆さんとの活動も「作業したい」という多くの声に応じて回数を増やし、通常の見学では入れない未整備エリアの作業と一緒にを行いました。アフンの森をより理解していただく機会となり、さらにリピーターを育て、支援の継続にもつながればと思います。

アフンの森の整備

50,000m²

14

宮城県

海を守るために木を植える 森は海の恋人

特定非営利活動法人 森は海の恋人

明るくなった森に植生も少しずつ回復し、流域のエコツーリズム計画も進めています。

COSMOエコ基金の支援で、今年も無事「森は海の恋人植樹祭」を開催しました。雨の中、全国から800名が参加し、地元の室根小学校の生徒たちと1,100本の苗を植樹しました。西舞根川流域の環境保全活動も、間伐や下草刈りの整備を進め、植生が少しずつ回復しています。同時に、流域の自然を活かしたツーリズムの計画も進めています。また自然のつながりの大切さを伝えるための絵本「『しぜん』ってなんだらう?」を制作し、WEB版も用意し小学校などで活用いただける予定です。

皆さまのご支援のおかげで、森と海と人とがつながりを保ち、その理念は世代を越えて引き継がれています。これからも応援よろしくお願いたします!



左より、畠山 信さん、横山 勝英さん、畠山 重篤さん、白幡 美晴さん

舞根地区流域の環境保全

5,600m²

15

宮城県

鳴子温泉の地熱と暮らす

特定非営利活動法人 スパッと鳴子温泉自然エネルギー



いつもご支援いただきありがとうございます。地元学校での出前授業を今年も実施できること御礼申し上げます。

左より、遊佐 宗一さん、菊地 昭二さん、高橋 隆さん

大学生と高校生が協働で開発した装置で、再生可能エネルギーを学び、若い力も育てます。

地元高校の自然科学部と東北工科大学部の研究生と学生が協力して、再生可能エネルギーを学ぶコンテンツを開発しています。一つは「温泉バイナリー発電」の模型装置で、水よりも沸点の低い液体を温泉で熱し、その蒸気でタービンを回して発電します。もう一つは、廃棄物などを発酵させてつくったメタンガスを使って電気や熱をつくる「小型メタン発酵システム」です。参加した生徒たちとNPOの会員で、秋田県の地熱発電所見学会も行き、再生可能エネルギーの先進事例も学びました。開発した装置は、体験教室の実演で使えるように改良を進めていく予定です。

再生可能エネルギー体験用の装置開発

2件

COSMOエコ基金会員の皆さまにご参加いただけるCOSMOのイベント

日帰りエコツアー
実施のご報告

会員限定

竹林を間伐して鎌倉の森を取り戻そう

開催日時 2023年11月11日(土)
9時30分～14時00分

開催場所 江ノ島電鉄「極楽寺駅」周辺
(神奈川県鎌倉市)

参加人数 COSMOエコ基金の会員さまと
そのご家族等 9組17名

協力団体 一般社団法人地球の楽校
<http://www.chiqnogakukou.com/>

COSMOエコ基金の会員さまに日頃からご支援いただいている活動に実際にご参加いただく日帰りエコツアーを開催しました。神奈川県鎌倉市極楽寺周辺の散策や、間伐した竹の利活用を体験する竹細工のワークショップをお楽しみいただき、参加者の方から「東京の近くで

自然を感じられた」、「時間が足りない程楽しかった」、「竹林や植物の説明が分かりやすく、楽しく学ぶことができた」などの、あたたかい感想が寄せられました。

今後もCOSMOエコ基金では、「ずっと地球で暮らそう」のコンセプトのもと、COSMOエコ基金の会員さまとともに活動を着実に重ねて、脱炭素志向の開かれた地域循環型社会づくりに貢献してまいります。



集合写真



散策の様子



ワークショップの様子

2024年度「コスモ アースコンシャス アクト」のご案内

コスモ アースコンシャス アクトは、コスモとTOKYO FMをはじめとするJFN(全国FM放送協議会加盟38局)がパートナーシップを組み、「アースコンシャス～地球を愛し、感じるこころ」をテーマに、地球環境の保全を全世界に呼びかけていく活動を展開しています。



誰でも参加OK

クリーン・キャンペーン

自然と親しみながら、日本各地の環境課題の解決への貢献をめざして、清掃や植林などの活動に取り組んでいます。

2024年度の開催情報はホームページに掲載予定です。誰でも参加できますので、ぜひチェックしてみてください!



開催情報はこちらへ

<https://www.tfm.co.jp/earth/clean/>



コスモ アースコンシャス アクト
公式X(旧Twitter)

最新情報を配信しておりますので、ぜひフォローを!



オリジナル番組

ラジオ番組

「コスモ アースコンシャス アクト 未来へのメッセージ」

JFN38局フルネットで放送中。毎回1名のアーティストなどが登場し、環境問題や地球の未来について実践しているアクションをご紹介します。

AuDee/PODCASTで番組配信中!!

「COSMO ECO Marché」「COSMO みらいかぜ」はこちらからご視聴できます
<https://www.tfm.co.jp/earth/program/index.html>



2023年度収支報告

収入の部

カーライフスクエアアプリ ポイント
141,500円

アプリご利用のお客さまによるキャッシュバックポイントのご寄付(500ポイント単位)

コスモでんきグリーン契約者
218,500円

コスモでんきグリーンご契約により、コスモ石油マーケティング(株)がご契約者お一人当たり500円の寄付金を拠出

エコカード会員拠出金
30,229,500円

エコカード会員さまによる年間500円のご寄付

預金利息
1,032円

収入
2023年度合計
64,878,551円

① ECOバッテリー売上一部
(株)コスモトレードアンドサービス拠出金
849,120円

環境配慮型バッテリーの売上1個につき10円を寄付しています。



※コスモECO.Rスタンダードは一部商品を除き1個あたり50円

② プラチナユーザー募金
コスモエネルギーホールディングス(株)拠出金
8,406,000円

③ カード売上一部
コスモ石油マーケティング(株)拠出金
25,032,899円

給油や洗車によるカードご利用金額の一部を寄付しています。



収入の部
2023年度合計
64,878,551円

コスモエネルギーグループからの拠出金
①+②+③ **34,288,019円**

支出の部

南太平洋諸国支援
(キリバス)
1,170,476円

熱帯雨林保全
(ソロモン諸島)
7,911,000円

野口健 ヒマラヤに森をつくらう
(ネパール)
6,666,553円

海外支出
2023年度合計
27,958,229円

熱帯雨林保全
(パプアニューギニア)
5,404,457円

異常気象に
負けない森づくり
(フィリピン)
6,805,743円

学ぶ、守る、つなぐ、琵琶湖の水
2,565,000円

竹林を間伐して
鎌倉の森を取り戻そう
2,774,321円

八王子の里山を
明るく変えていこう
2,000,000円

人と動物が共生する
「安賀彩りの森」
3,056,901円

地域住民で守る
神山の里山保全
2,996,198円

国内支出
2023年度合計
30,354,867円

生物多様性を体感
できる森づくり
1,561,989円

海を守るために
木を植える森は海の恋人
7,128,394円

世界遺産富士山の森を
守り再生させよう
3,048,195円

鳴子温泉の地熱と暮らす
1,991,750円

C.W.ニコル・アフアの森と
東松島の森づくり
3,232,119円

支出の部
2023年度合計
71,395,368円

海外支出小計 **27,958,229円** + 国内支出小計 **30,354,867円** + その他支出小計 **13,082,272円**

振込手数料
38,830円

残高証明書発行料
440円

会計・運営に関する
コンサルタント費用
1,960,800円

請求書同封チラシ
作成料
1,879,126円

その他支出
2023年度合計
13,082,272円

会計レビュー費用
300,000円

専門家への委託費用
100,000円

活動報告書作成料
8,803,076円

COSMOエコ基金は、皆さまからのご支援により支えられています

皆さまからの寄付

コスモエネルギーグループ
からの寄付

地球環境の保全や啓発等に取り組むプロジェクトを支援

エコカード会員の皆さまが
「コスモでんきグリーンのご契約」で※1

自動的に年間 **500円** COSMOエコ基金に寄付

エコカード会員の
皆さまが

10年以上継続でご加入され
コスモのサービスステーションでの
ご利用金額が
年間**15万円**以上になると

コスモエネルギー
グループが

お一人様につき**1,500円**を
COSMOエコ基金に寄付します
(プラチナユーザー募金)※2



エコカード会員の
皆さまが

給油や洗車をされると

コスモエネルギー
グループが

ご利用金額の**0.1%**を
COSMOエコ基金に寄付します

※1 コスモでんきグリーン: コスモ石油マーケティング株式会社が、電力事業の売上の一部からご契約者お一人様あたり年間500円の寄付金を基金に拠出します。
※2 継続年数、ご利用金額、プラチナユーザーお一人様あたりの寄付金額は、サービスステーションのガソリン価格や原油価格等の環境要因を踏まえて毎年設定しています。



コスモのアプリ

クルマにイイコト、あつまるところ。

CarLifeSquare

COSMOエコ基金のイベントのご案内などをいち早く受け取れるほか、
スマホにダウンロードするだけで、ガソリン代がずっとお得になるアプリです。
アプリからの車検の見積りや、カーメンテの予約ができるなど便利な機能がいっぱい。
まだ使ったことがない方は、ぜひ今すぐダウンロードを!

Download on the
App Store



Google Play
で手に入れよう



編集後記

最後までお読みいただきありがとうございました。
会員の皆さまのご支援により、国内外のプロジェクトが推進され、今回も成果をお伝えすることができました。今後も皆さまとともに、COSMOエコ基金を盛り上げていきたいと思っておりますので、皆さまのお声をぜひアンケートへお寄せください!

アンケートは
こちらから



COSMOエコ基金事務局 野田 直子



〒105-8302 東京都港区芝浦1丁目1番1号
コスモエネルギーホールディングス株式会社
コーポレートコミュニケーション部 広報グループ内
COSMOエコ基金事務局 ecocard_fund@cosmo-oil.co.jp



この活動報告書は、
FSC® 認証紙を
使用しています。